

令和4年9月30日
株式会社シーエス・ワンテン
バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和4年9月30日（金）
- ・開催方法 新型コロナウイルスの影響により書面での開催
- ・参加者 審議委員総数 7名
 - 委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）
 - 委員 関谷 信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校 学校長）
 - 野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
 - 芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
 - 松居 秀之（株式会社ピクス 常務取締役）
 - 松尾 健司（株式会社J-WAVE 編成局 エグゼクティブプロデューサー）
 - 山本 伸夫（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
谷 俊之（編成局長）

（番組供給事業者：バイアコム・ネットワークス・ジャパン株式会社）

井股 進（代表取締役社長）
本間 雅彦（クリエイティブ&コンテンツ部 シニアディレクター）
戸田 裕介（クリエイティブ&コンテンツ部 編成/タレント&ミュージック マネージャー）
河内 英理也（コンテンツ・ディストリビューション・マネジメント本部 マネージャー）

- ・審議番組 「MTV LIVE SESSIONS:Kyoko Saito from Hinatazaka46」
- ・放送概要 2022年6月5日（日）20時～21時
- ・番組内容

MTVでは2021年に開催されたライブイベント「MTV LIVE MATCH」、音楽

アワード「MTV VMA J 2021 -THE LIVE-」にて、日向坂46メンバーの中で最も歌唱力に定評がある、齊藤京子さんのソロ歌唱パフォーマンスをお届けし、好評の声を頂いておりました。

さらに彼女の歌唱力を届けるプログラムとして、MTVプロデュースによる初のオリジナルソロライブを収録し、2022年6月5日（日）に放送しました。

番組はライブと撮りおろしインタビューで構成し、普段のアイドル活動とは異なる、彼女のボーカリストとしての魅力がより多くの方へ伝わるような番組制作を心がけました。

また、特設サイトでは楽曲解説インタビューをアップし、より多くのお客様へ番組の視聴訴求となるような展開を行いました。

・委員からの意見・質問とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- 選曲が素晴らしかった。幅広い年代、ジャンルの曲を見事に歌いこなす齊藤京子さんのパフォーマンスに「彼女のボーカリストとしての魅力をより多くの人に伝える」という制作目的は完全に達成されていたと思う。
- 曲順やインタビューを含めたプログラム構成、バンドメンバーの紹介のタイミングも非常によく、全編テンポよく楽しむことができた。完成度の高い番組だと感じた。
- カバー楽曲で基本的に構成されていたが、昭和歌謡やジャジーなものまで変化に富み、齊藤京子さんの歌唱力を試すとともにその素晴らしさを堪能できた。
- ソロで様々な楽曲をカバーするというコンセプトに興味を引かれた。本編でカバーしていた中森明菜さんがデビュー40周年ということで、80年代アイドルに再び注目が集まっている背景などもあり、グループアイドルのメンバーがあえてソロで歌うという企画にタイムリーさも感じた。
- 齊藤京子さんのボーカルの魅力に特化した、シンプルな構成ながら非常に興味深い番組だと感じた。余計なことをせずに「唄うこと」に絞り込んでおり、コアなファンだけでなく幅広いファンに訴求できる番組になっていると思う。
- 齊藤京子さんの歌唱力、難易度の高いセットリストに驚き、この番組を見て齊藤京子さんの今後注目したいと思った。
- 「齊藤京子さんの歌唱力の高さを伝えること」としてはとてもシンプルで直感的な番組であった。カバー曲を歌うことで、オリジナルとの比較の中で齊藤京子さんの歌の魅力がより明確になっていた。
- 番組内で紹介されていた、ソロライブのきっかけになったという緑黄色社会とのコラボレーション、VMA Jでの「ラブカ？」のパフォーマンスもとても良かった。
- 合間に挟まれるインタビューと、WEBと連動した楽曲解説で、齊藤京子さんの想いや選曲の意図、感想などが見られる構成も親切であり、非常に興味深かった。
- WEBのインタビューを読むと、バンドとリハーサルをしながら着地点を見いだして

いったことが語られていたので、その部分をドキュメント風に映像で見てみたかったとも思った。

- WEBなどでの本人の楽曲に対するフォローはあるが、各楽曲のデータや解説などをあわせてインフォメーションされると尚いいと思った。サブスクによってオリジナル楽曲へのアクセスも容易になり、音楽の拡散が活性化されるのは音楽専門チャンネルの使命として持つのは大事だと思う。視聴者の音楽の知識が広がることへも繋がり、ライトユーザーをヘビーユーザーに変えていくのも将来的部分を見据えると重要事項だと感じている。
- インタビュー内で、YOASOBIの楽曲をファルセットで全編歌ったことの影響などを語るなど、歌唱法に対する説明も分かりやすかった。
- カバーした楽曲も、70～80年代の曲から、緑黄色社会やYOASOBIなど最近の楽曲まで幅広く、日向坂46のファン以外にも幅広くアピールできるセットリストであったと思う。家族でも楽しめる番組という印象も感じた。
- RADWIMPS、King Gnuの男性ボーカル曲が意外性とキレを感じてよかった。今後、男性ボーカルのみのカバーをするという企画も面白いかもしれないと思った。
- 選曲の幅広さゆえ、初めて聞く曲もあったので、曲のタイトルだけでなく、オリジナルのアーティスト名と発表年が分かると思った。ただし、特設サイトで1曲ずつ齊藤京子さんのコメント付きでフォローされており、これを読んで改めて番組を見直したくなった。
- 音楽専門チャンネルとして、そしてアーティストへのリスペクトとして、テロップに原曲のアーティスト名、作詞・作曲者名を載せた方が良かったと思った。
- 生田絵梨花さんの「MTV Unplugged」をはじめ、アイドルグループの中の「歌が上手いメンバー」をフォーカスして、ライブ企画を実施するというMTVらしいアイドルの見せ方にとってもセンスを感じた。今後もこのような企画を期待したい。
- MTVらしいいい音楽、いい音へと導く良質な番組であった。
- 衣装が曲調に合わせて白や赤に変化しており、視覚的にも印象的だった。また、カメラ割り等の映像技術も素晴らしかった。
- カーペンターズのカバーは、齊藤京子さんのファンをはじめ、視聴者が洋楽を聞くきっかけになるのではと思った。訳詞をつけるとさらに良かったと思った。
- メンバー紹介以外でもバンドとのセッションの感じや、バンドメンバーから齊藤京子さんへのメッセージ・課題なども番組内で挿入できるとさらに良かったのでは、とも感じた。
- 歌唱とインタビュー以外の要素も何か付加できると、齊藤京子さんのファンでない視聴者にも訴えかけるものがあつたのではないかと思う。
- 「歌唱」を前面に出した企画なので、あえて動きを抑えたり過剰な演出は排除していると想像するが、途中で衣装チェンジはあつたものの、大きな画替わりが無く、映像とし

ての動きが少ない印象であった。

- 視覚的部分において、もう少し演出が欲しかった。アコースティック曲をキャンドル1本で見せるとか、ダンスを伴う楽曲を混ぜるとか、もう少しだけ工夫があってもいいと思った。
- 大きなチャレンジだったのだと思うが、選曲が「攻めすぎている」とも感じた。選曲次第で、齊藤京子さんの歌声がより生かされ、普段と全く違う凄さがより出せたようにも思う。

- ・ 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日
今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和4年9月30日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。
- ・ 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
令和4年10月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。

以上